

3年内で

ウォークラリー

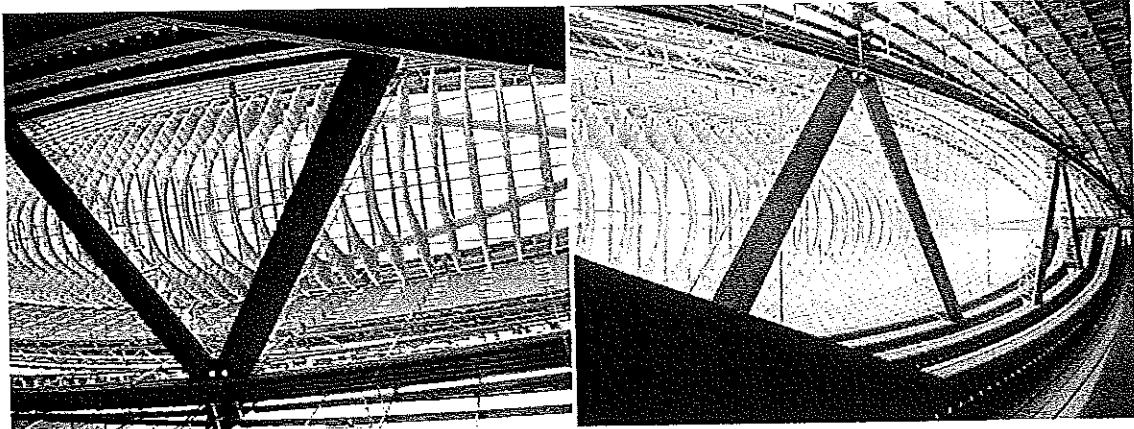
10N1052

佐藤 究



皇居

東京にこんなに広くて、緑の多い場所があることにとても驚きました。城跡は初めて生で見たのですが、やはり写真で見るのとは違い、間近で見るとその大きさや迫力を肌で感じることができ、とてもいい経験となりました。また、皇居内には芝生の広場があり、晴れの日にはそこでバトミントンをしたりできるとTAの人へ聞いたので、今度また来た時にはやりたいなと思いました。



東京国際フォーラム

ここに入って上を見上げた時、あまりの凄さに鳥肌が立ちました。私が今までで実際に見た建築物の中で一番感動しました。ガラスをどうやってこんなにも美しい曲線になるよう曲げているのか、何故こんなに大きな建物をこんなに少ない柱だけで支えているのかなど、この中にいるととても不思議な感覚になりました。もう一度来てみたいと思いました。

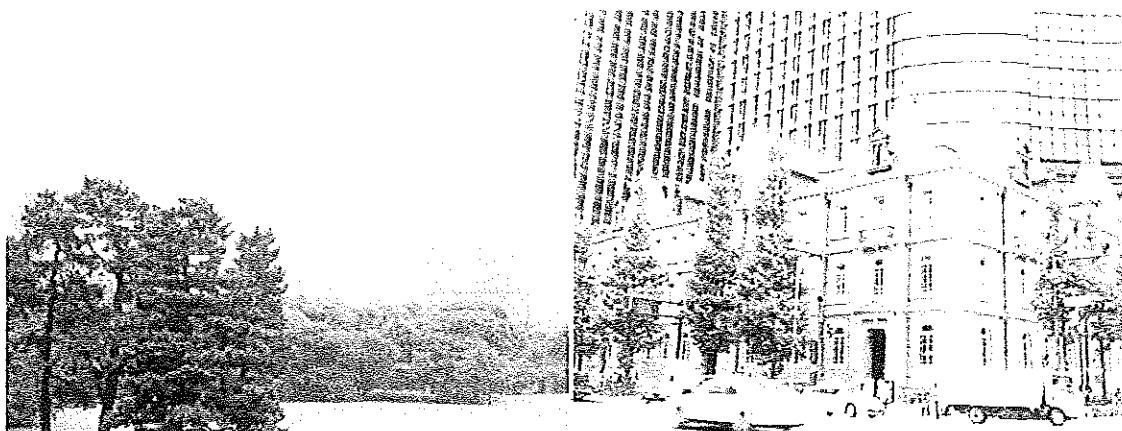
丸の内と月島を歩いて

10n1053 佐藤隼平

今回のウォークラリーで、丸の内と月島を歩いて特に印象に残ったのが、三菱一号館と皇居東御苑です。この2つが印象に残った理由は、まず三菱一号館は、1968年に丸の内の高層化再開発のために解体されました。だが、2009年に復元されました。復元するにあたって、多くの煉瓦を必要であり、その煉瓦を作れる人は日本にはおらず、中国の職人に230万個もの煉瓦作ってもらいました。わざわざ中国の職人に頼んでまで、復元をしたかった理由はなんのか気になったので印象に残りました。次に、皇居東御苑は東京のビルのジャングルの中に緑がこんなにも豊かな場所があることに驚き印象に残りました。

丸の内を古地図と現代の地図と見比べながら歩いて、皇居の形はほとんど変わってなく、皇居の周りの建物は大きく変化していました。町の過去と現在を見比べながら歩くことは、その町の歴史を感じることができて良かったです。

今回のウォークラリーでは、知識が浅はかだったので、丸の内の建築物等を見ても雰囲気が良いなど何となく凄いとしか思うことができませんでした。なので、今度は大学の授業を受けたり、建築の雑誌等を読んだり、様々な場所を歩いたりして、町歩きのやり方を学び知識を深めてからもう一度歩いてみたいと思いました。



陣内導入ゼミ ウォークラリー

建築学科 10N1054 佐藤 維大

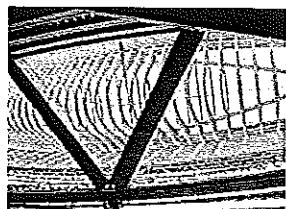
私たちは今回、丸の内・佃島コースということでいろんなところを歩いてきた。千葉県の田舎出身の私は東京駅でいきなり迷いかけてしまったが、なんとか定刻通りに丸の内オアゾに到着。そこから班ごとにわかれて行動することになった。



大手高麗門。ここは道に対して垂直方向に門が形成されていた。これは敵が攻めてくるときにわざわざ減速せざるをえず、勢いを抑えるよう考えてこの配置にしたそうだ。賢い。
敷地内にはいると、東京とは思えない豊かな自然に囲まれる。地元の景色に似たようなものがあり親近感がわいた。

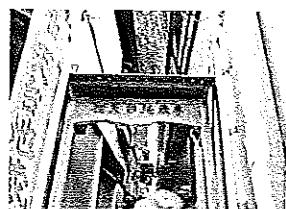


三菱一号館によったあと、東京国際フォーラムに行った。個人的にガラス棟の天井の構造がきれいだった。天井を見上げると細い通路が目に入ってきたが、あの通路は危険らしい。



そのあとは電車で月島までいった。佃天台地蔵尊では、すさまじく太いイチョウの木が悠々と立っていた。樹齢はいくつだろうか。

その後は佃煮屋へいった。先輩が佃煮を買ってきて少し食べさせてくれた。あれはご飯があればいくらでもいけそうであった。



ウォークラリー後は飲み会に連れて行ってもらった。陣内先生はいい人だった。

ウォークラリーに参加して

学籍番号 10n1055

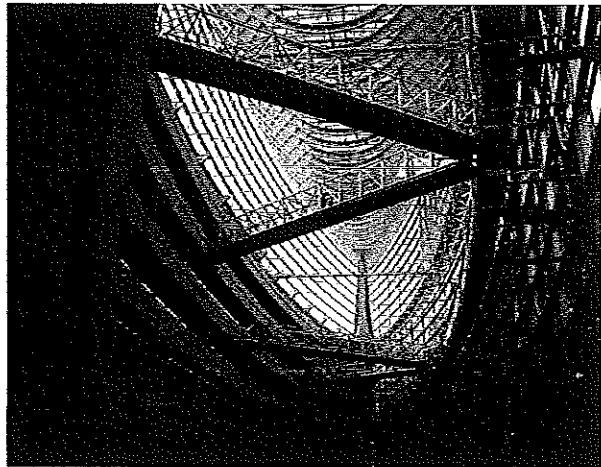
氏名 佐藤敏也

今回のウォークラリーはたくさんのこと学べました。先生やたくさんの先輩方と歩いたことで街歩きがどういうものなのか、どのように見て歩くのか、などがわかりました。



このウォークラリーで最初に興味を持ったことは、三菱一号館（復元前）です。周りがとてもたかいビルなどで埋め尽くされている中に一つだけヨーロッパの雰囲気を持っている建物だったからです。

またこの建物に使われているレンガが今の日本では作られていなくてすべて中国で作られているということにも驚きました。



次に興味を持ったところは、東京国際フォーラムです。まず最初に思ったことは、ガラス張りになっていてかっこいいなどおもいました。またこの建物の中に入ってみると、ガラスの吹き抜けホール（ガラス棟）が船を題材にしているということがわかりました。

側面のガラスが外に広がらないよう内側に曲がっていてこれをやらないと外に広がってしまうと聴いて、こういうことを後々勉強していくんだなと思いました。

今回は多くの先輩や先生がたの話を聞くことで、よりいっそう建築や街歩きなどに興味が出てきました。

ウォークラリー

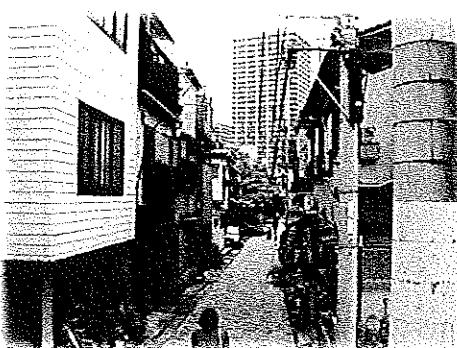
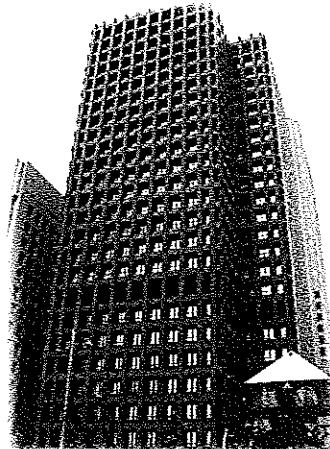
陣内秀信研究室

10n1056 佐藤直哉



どの建物も保存されていると言わればそう見えるし、保存されていないと言われてもそう見えるような薄っぺらい風貌で、迫力に欠けていた。高いビルを建てたいから、とはいえたんだが揚げ足を取られているような気分になった。完璧な状態で現存していたらどれだけ気持の良い街並みになっていたのだろうと考えるとかなり惜しい。

個人的にはこの前川國男さんが設計した東京海上ビルがウォークラリーの中で一番魅力的に感じられた。デザイン、百尺を超えたビル、景観論争を巻き起こしたビル、といった見た目やエピソードのすべての事柄を含めてとても気に入った。私は無意識のうちにだいぶ気に入っていたようで、街のどこを歩いていてもいつの間にか目に入っていた。周りのビルと比べると少し背丈が低いが、独特な雰囲気を醸し出していて、ビル界の異端児という感じがして面白かった。



最後に訪れた佃島は東京駅前とはイメージがらりと変わって驚いた。レトロな街並み、駄菓子屋でお菓子を食べる子供たち、使い込まれた船、すべてのものがゆったりとした時間が流れる静かな空間に存在していた。東京にもこんなに癒される、落ち着く場所があったのには心底感動した。時間に追われてせかせか働く現代人にはこのような場所が必要だと強く感じた。

心の底から楽しいと思える時間を過ごせて本当に良かった。上記3つの話が特に面白かったが、全て興味をそそられるような話で傾聴していた。また、こういった話だけでなく、建築学科生としての心得等も教えていただき、新しい発見ばかりの一日だった。習ったことを教訓に多岐にアンテナを張り巡らせて自分の感性を磨いていきたい。

ウォークラリー

10N1057 佐藤勇貴

当日は天気があまり良くなくて残念だったけど、ウォークラリーはすごく楽しめた。

まずははじめに歩いたのは丸の内。東京駅は京葉線を使って 20 分足らずくらいで来ることができて、乗換えでも良く使う駅であったが、丸の内側に来るのは初めてだった。丸の内に来たときの印象は、普通のオフィス街と比べてきれいできちんと整備されていて、おしゃれなオフィス街だと思った。1960 年代の丸の内は、高さが 30 メートルの近代的な洋風のビルが並んでいたという。今現在は、丸ビルや新丸ビルをはじめとする超高層ビルが立ち並んでいて、いくつか洋風のビルが保存されていて、近くでみたり、実際に中に入ってみたりして、1960 年代の丸の内を想像できたような気がして、すごくおもしろかった。

次に皇居を歩いた。皇居に行くのも初めてだった。皇居は東京駅から歩いてすぐのところにあるにもかかわらず、すごく緑が多くてびっくりした。東京都心にこんなにも緑が多いところがあると思ってなかった。

続いて皇居を出て、仲通りを抜けて東京国際フォーラムを行った。仲通りは、三菱地所によってきれいに整備されていて、ビルの 1 階には、高級ブランドショップや飲食店が軒を連ねていて、すごくおしゃれなところだった。東京国際フォーラムは、一面ガラス張りで天井が高くて吹き抜けだったから斬新な建物だと思った。

最後に佃島と月島に行った。月島は毎日通っているけど降りたことがなかった。結局全部初めて行ったところだった。佃島も月島は有楽町から 3 駅しか離れていなかったのに、一気に下町になった。まだ木造の古い建物も残っている一方で、すぐ横には現代的な高層マンションがあってすごく不思議で面白いところだった。こういうところが日本独特だと思った。

今回のウォークラリーでは、陣内先生や TA の方々の話を聞いて見て回ってみて、東京という都市のおもしろさというものがわかつたし、歩いてまちを見て回るということにすごく興味を持った。ウォークラリーはすごく楽しかったので、またやれる機会があれば良いなと思った。導入ゼミは 3 回しかなかったけど、いろんなことを学ぶことができた。陣内先生、TA の方々、ありがとうございました。



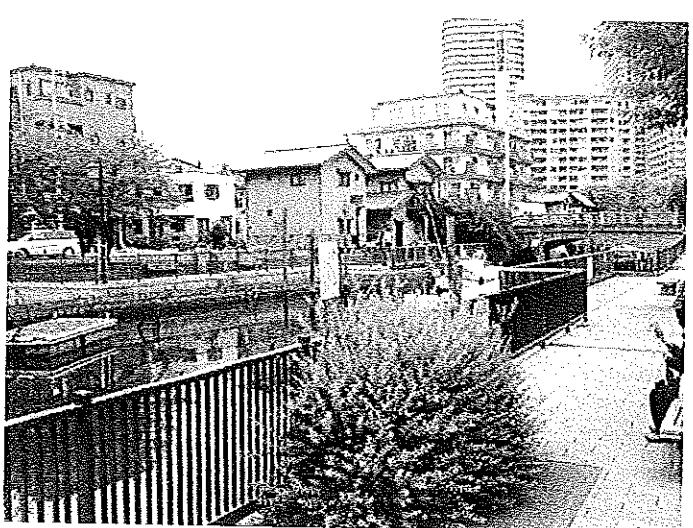
法政大学建築学科ウォークラリー
陣内研究室 丸の内・佃島コース

10N1058 志田 瑛美

私は今回のウォークラリーで初めて皇居の中に入りました。今まで、周りの北の丸公園はよくいっていたりしたのですが、皇居の中には一度も入ったことがなくてとても感動しました。特に江戸城の跡は眺めがよく、ビル群がなければ海まで見通せる、景色の素晴らしいところだったのだろうと思いました。緑も多く、攻め込まれないように曲がりくねった道も歩くのが大変でしたが風情があってよかったです。晴れいたらもっとよかったのではないかと思うので、また見学に行きたいと思いました。

また丸の内にある、たくさんの歴史のある建物がどれも魅力的で、中でも三菱一号館は復元された姿が美しく立派で、あまり見学する時間がなかったのがとても残念でした。
美術館の方も気になるので、近いうちにまた行けたらいいなと思っています。

そして、佃島は素敵なところでした。
下町らしい町並みで、細い路地に吸い込まれそうな感覚がなぜか懐かしく思えました。
そんな路地の奥には天井を貫く大木と神社のある不思議な空間があつたりして、探索しがいのありそうな町でした。機会があればもっといろんなところを歩いてみたいと思います。



導入ゼミナール街歩き

10N 1059

柴田侑亮

東京駅から街歩きはスタートした。東京駅は行ったことがほとんどなかったので、ビルの多さに驚いた。丸ビルが数多くあったが、なぜそのようなビルが多いのか、なぜそのような形のビルになっているのか等にはちゃんととした歴史があり、建築において、そのような歴史を学ぶことも大切なことであると実感することができた。

ちょっと歩いて気がついたことだが、東京都心であるのに緑が多い。しっかりときれいに木が植えられていて、緑とビルがうまく調和している気がした。

東京にも緑があるという印象をさらに根強くしたのは、皇居である。ビルの間を少し抜けしていくと、そこは東京とは思えない、どこか田舎に来た気さえ僕はした。皇居を眺めてから、後ろを向く。すると今度はビルが並んでいる。一瞬で景色が変わってしまうのが、現実ではないような、すごく不思議な空間を体験できたと思う。

皇居の中は、まさに緑の楽園であった。ビルに挟まれている、ある意味では窮屈な空間はそこにはなかった。一見なんの意味も無いようなその土地も、そこにいることによって、心が癒される。実はしっかりと意味を持った空間であり、皇居に行ったことがない人は、損しているとさえ思った。

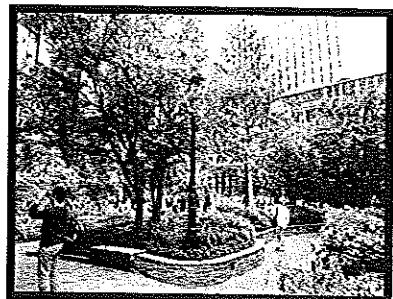
皇居の中には天守閣跡があったが、それがまたいい味を出していた。見事に重ねられた石のみが残っていて、すごく歴史を感じさせる。それはまるで遺跡のように見えた。ここに大火でなくなってしまった天守閣を再築させようとの声も上がっているそうだが、僕はこのままのほうが、いい空間をつくっていると思う。

皇居を出て、また丸の内の街中に戻り、さまざまな建物・空間を見た。西洋の文化を取り入れた建物・空間や、イギリス文化のレンガ造り、そういう空間は、そこにいるだけで日本ではないような気がした。

最後に月島へ行った。丸の内の近くであるのに、景色は全く違う。駄菓子屋があつたり、(使えるかは不明であるが) 井戸があつたりで、下町という空間とさっきまでの空間とのギャップが凄まじかった。車もそんなに通らないので、駄菓子屋の前の道路でボール遊びをしている子ども達もいた。ここまで景色が変わるのが信じられなかつたが、同時に東京の面白さを体験できたのだと思った。今度行くときには、もんじや焼を食べよう。

東京に住んでいながら、東京を知らないことに気がついた。ほんの数時間歩いただけで、こんなにも面白さに気がつく。面白い空間がたくさん眠っていて、とてもいい経験になったと思う。普段何気なく通り過ぎてしまう景色も、見方を変えれば、新しいものが見つかる。

東京はいい街だ。

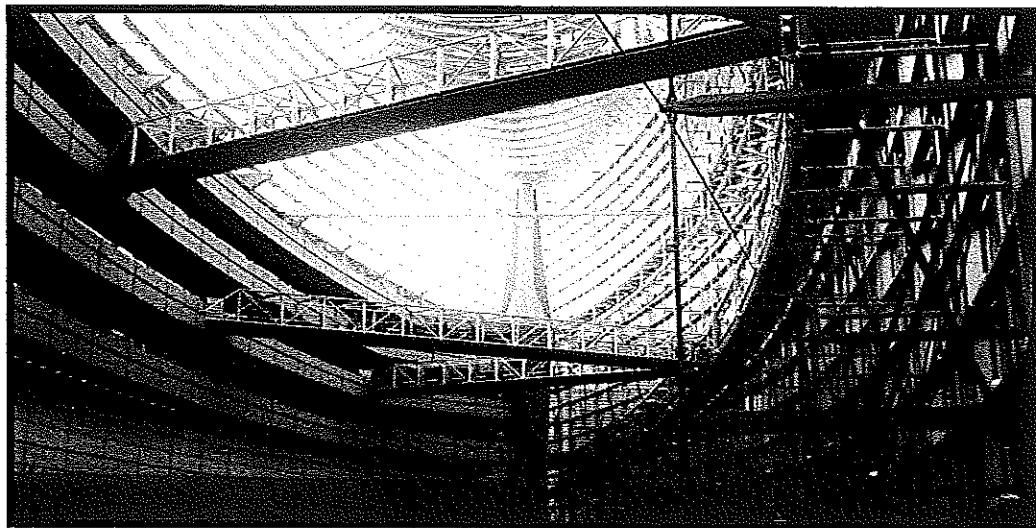


ウォークラリーを終えて

学籍番号 10N1060

下井 亮

1番印象に残った場所



僕が一番印象に残った場所は東京駅にあるこの建物です。

壁面がガラスで張りめぐらされており、曲面をかたどっているところに一番感銘をうけました。ガラスを張ることを考えれば、普通、平面をイメージしがちでしたが、曲面として張る発想がすばらしかったです。聞くところによると、これはガラスを圧縮しているとのことでした。圧縮して強度を増すという造りをしりました。

1番興味を持った場所



次に僕が興味を持った場所が月島にある、昔の雰囲気を今なお漂わせるとある場所です。大都市の東京を感じさせないレトロな雰囲気に僕は興味を持ちました。海に面している地域で、この地域の家にもいろいろな発見がありました。表札が3枚・2枚ある住宅や、家の造りでは、地面に接している部分は取り外しができ、浸水を防ぐ造りなどは面白かったです。

感想

今回東京の初めて見る場所をたくさん回らせていただいて本当に楽しかったです。自分ではおそらく行くことのないようなディープな場所は面白かったし、TAの方や陣内先生にもよくしてらい、改めて建築の世界に興味をもちました。

ウォークラリー感想

陣内ゼミ 10N1061 下浦瀬奈

私たちは大きく分けて丸の内と佃島の2ヶ所に行きました。

一丸の内一

東京駅を出て最初に思った感想は、「意外とお洒落！」

なんとなく都内は無機質なビルばかりが並んでいるイメージがあったからギャップに驚いた。多摩地区だが東京都に10年弱住んでいるのに、そういうえば東京駅は乗り換えてしか使ったことがないことにその時気付いた。

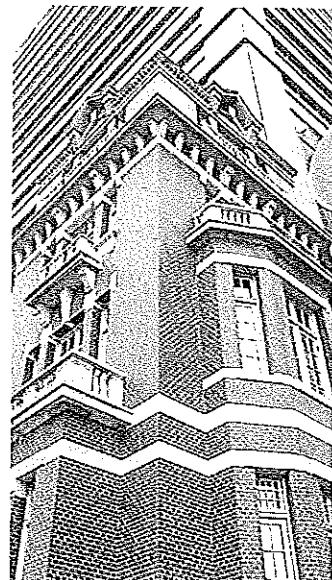
●丸ビル・新丸ビル

すごく変な形だと思った。

低階層は昔の建物を残しつつ上階をオフィスビルとして利用しているからという理由を聞いて、一回納得した気がしたけど、やはり違和感がある。

なぜ上階層を作るときに低階層の見た目に近付けて作ろうとしたのか、すごく不思議に思う。

低階層のデザインが洒落ているので、上階層の無機質さがミスマッチというか、せっかくの景観をぶち壊しているような気がして残念だと思った。



●三菱一号館

建物も綺麗だったが、中で見た設計図や模型等がすごいと思った。

当時の設計図等を利用して復元したと聞いて驚いたけど、こんなにしっかりした設計図が残っていれば確かにそれも可能だなあと思った。

模型も精巧に作られているなあと思った
し、建物だけでなく人の模型もあって、当時の様子が見えたのが面白いと思った。

